

数値計算実習課題その1

藤田 哲也 宇宙物理学研究室 B4

1

万有引力の法則

$$F = -\frac{GMm}{r^2}$$

をベクトルで表すと、

$$\mathbf{F} = -\frac{GMm}{r^3}\mathbf{r} \quad (1)$$

となる。中心星が惑星から受ける力を F_1 、惑星が中心星から受ける力を F_2 とする。 $\mathbf{r} = \mathbf{r}_2 - \mathbf{r}_1$ より、 $r = |\mathbf{r}| = |\mathbf{r}_2 - \mathbf{r}_1|$ なので、(1) より、 F_1 と F_2 はそれぞれ

$$\mathbf{F}_1 = -\frac{Gm_1m_2}{|\mathbf{r}_1 - \mathbf{r}_2|^3}(\mathbf{r}_1 - \mathbf{r}_2) = \frac{Gm_1m_2}{r^3}\mathbf{r}$$

$$\mathbf{F}_2 = -\frac{Gm_1m_2}{|\mathbf{r}_2 - \mathbf{r}_1|^3}(\mathbf{r}_2 - \mathbf{r}_1) = -\frac{Gm_1m_2}{r^3}\mathbf{r}$$

となる。よって、慣性系における中心星と惑星の運動方程式は、それぞれ

$$\mathbf{F}_1 = \frac{Gm_1m_2}{r^3}\mathbf{r} = m_1 \frac{d^2\mathbf{r}_1}{dt^2} \quad (2)$$

$$\mathbf{F}_2 = -\frac{Gm_1m_2}{r^3}\mathbf{r} = m_2 \frac{d^2\mathbf{r}_2}{dt^2} \quad (3)$$

と書ける。 $\mathbf{r} = \mathbf{r}_2 - \mathbf{r}_1$ より、両辺 t の二階微分をとると、

$$\frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2} = \frac{d^2\mathbf{r}_2}{dt^2} - \frac{d^2\mathbf{r}_1}{dt^2}$$

となるので、これに (2) と (3) を代入すれば、

$$\begin{aligned} \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2} &= -\frac{Gm_2}{r^3}\mathbf{r} - \frac{Gm_1}{r^3}\mathbf{r} \\ &= -\frac{G(m_1 + m_2)}{r^3}\mathbf{r} \end{aligned}$$

これは相対ベクトルを用いて表された運動方程式であり、中心星から見たときの惑星の相対運動を表している。これを解くことで、中心星に対して惑星がどのような軌道で運動するかがわかる。

2

速度の定義より、

$$\frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2} = \frac{d\mathbf{v}}{dt} = \left(\frac{dv_x}{dt}, \frac{dv_y}{dt}\right)$$

である。これと $r = (x, y)$ を用いると、1.の結果より、

$$\left(\frac{dv_x}{dt}, \frac{dv_y}{dt}\right) = -\frac{G(m_1 + m_2)}{(x + y)^{3/2}}(x, y)$$

と表せる。よって、それぞれの成分は、

$$\frac{dv_x}{dt} = -\frac{G(m_1 + m_2)}{(x + y)^{3/2}}x$$

$$\frac{dv_y}{dt} = -\frac{G(m_1 + m_2)}{(x + y)^{3/2}}y$$